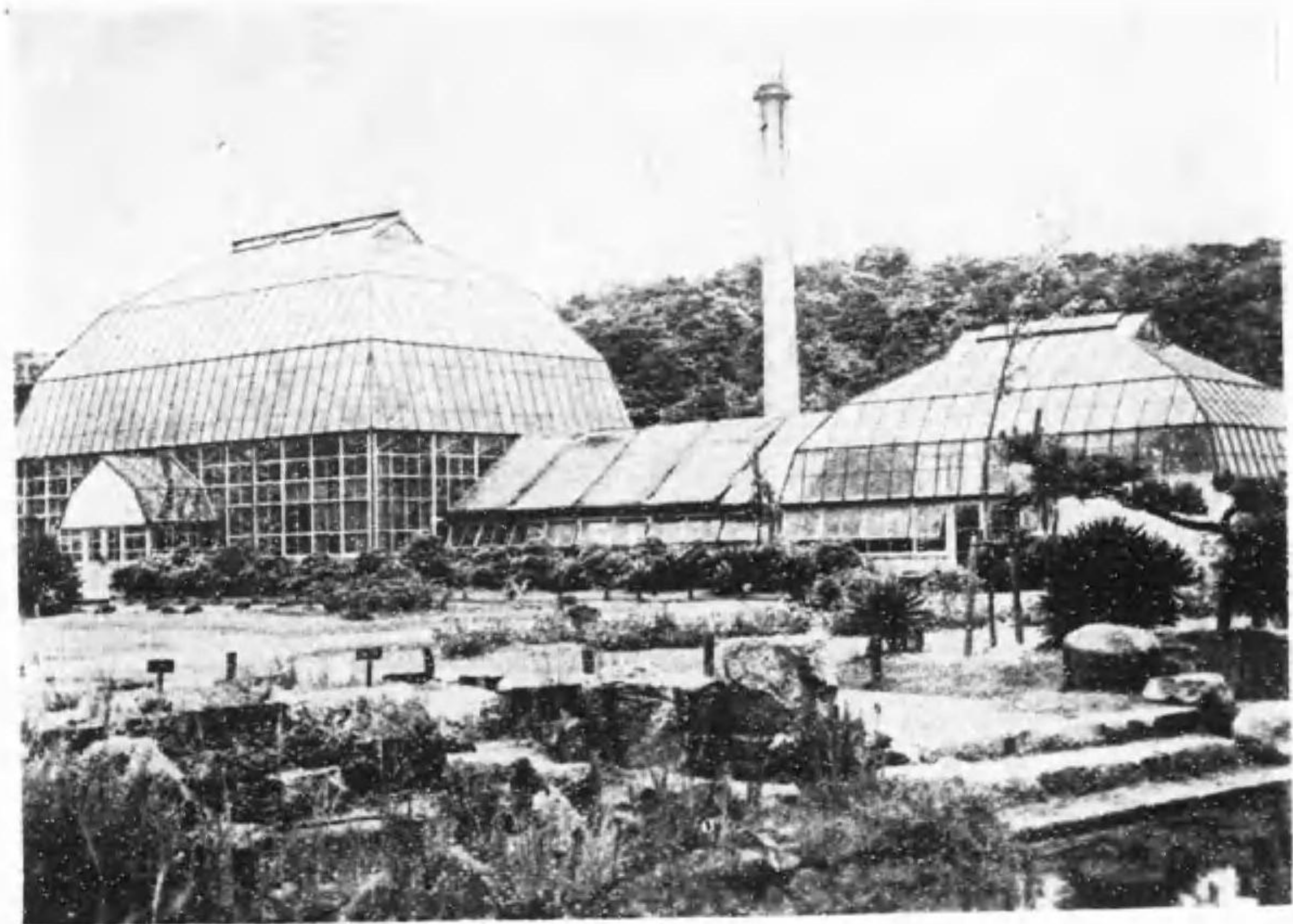




植物園の最も誇りとする代表的のもので全面積四百二十七坪の廣大さである。本寫眞は「仙人掌室」で中に南米産の「サボテン」「アメリカ産の「ホソバシマリウゼツ」「メキシコ産の「紅鯨」「アフリカ産の「木立アロエ」等の熱帯性植物がある中央にあるもの。…南米産サボテン
左端下方のもの…アフリカ産アロエ
右端下方のもの…アフリカ産ホソバシマリウゼツ



◎東山植物園温室全景

(千種區田代町
東山公園内)

市電、東山公園前下車東
南五丁

東山公園内、中央廣場東部を中心とする三萬坪の地域に四百六十五坪の大温室、藥草園、郷土園、教材園、牡丹園、花菖蒲園、等二十二區の分科園、ロックガーデン、觀賞樹林等が設置されてゐる。昭和十二年三月より開園。

◎温室内の

熱帯植物

(東山植物園内)

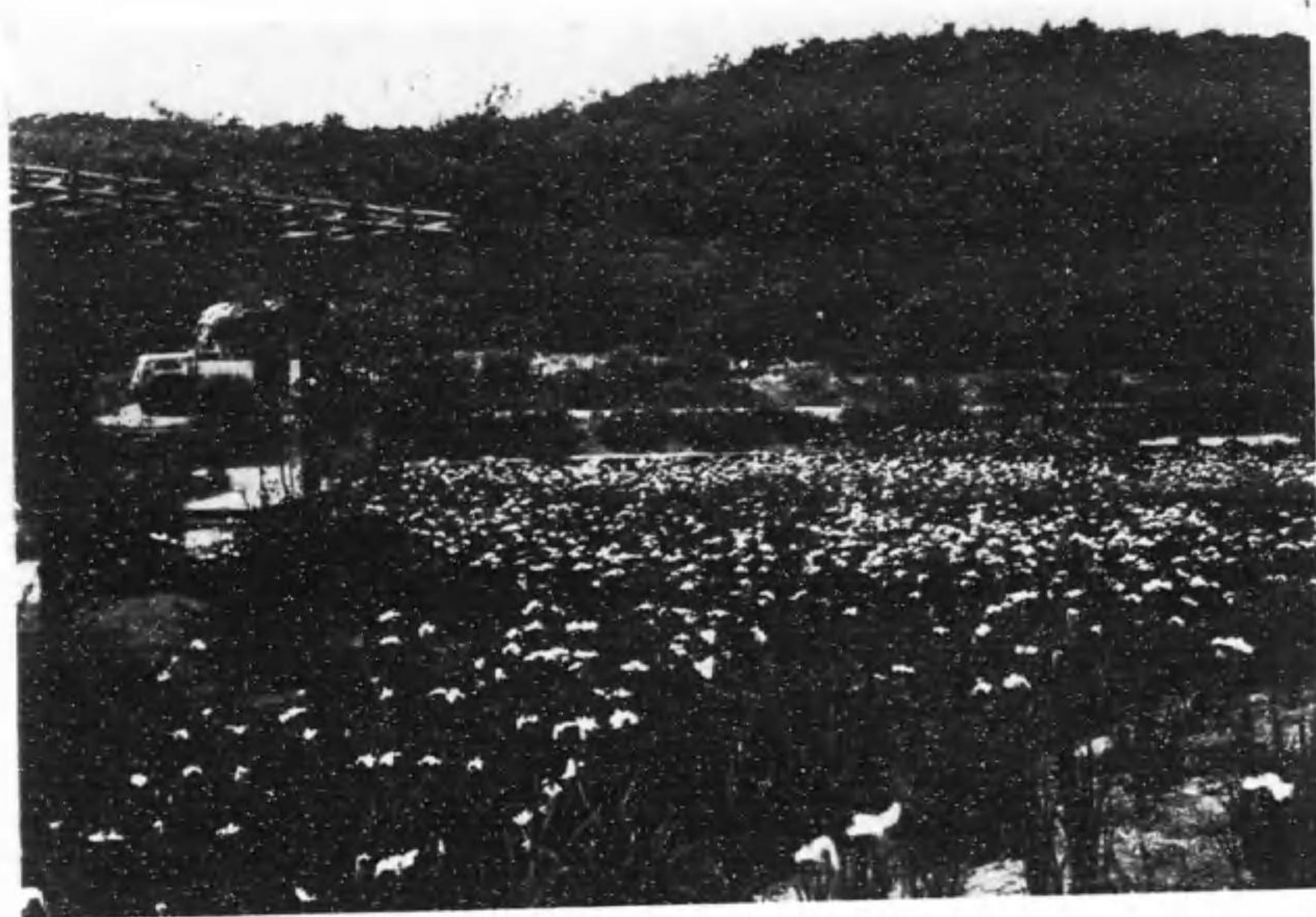


◎猿面茶屋

(昭和區鶴舞町
鶴舞公園内)

市電・市バス、
鶴舞公園下車

此の茶屋は、初め織田信長が清洲城内に造つたもので、それを名古屋城二の丸(今の中部第二部隊)の後庭に移され維新後明治十三年に門前町の商品陳列館に移し該館が取壊される時鶴舞公園の現在の處に移され幾度か改築されたのである。これは千利休の高弟古川織部重勝の好みにより作られ日本三茶室の一で昭和十二年七月二十九日國寶に指定されてゐる。



◎花菖蒲園

(東山植物園内)

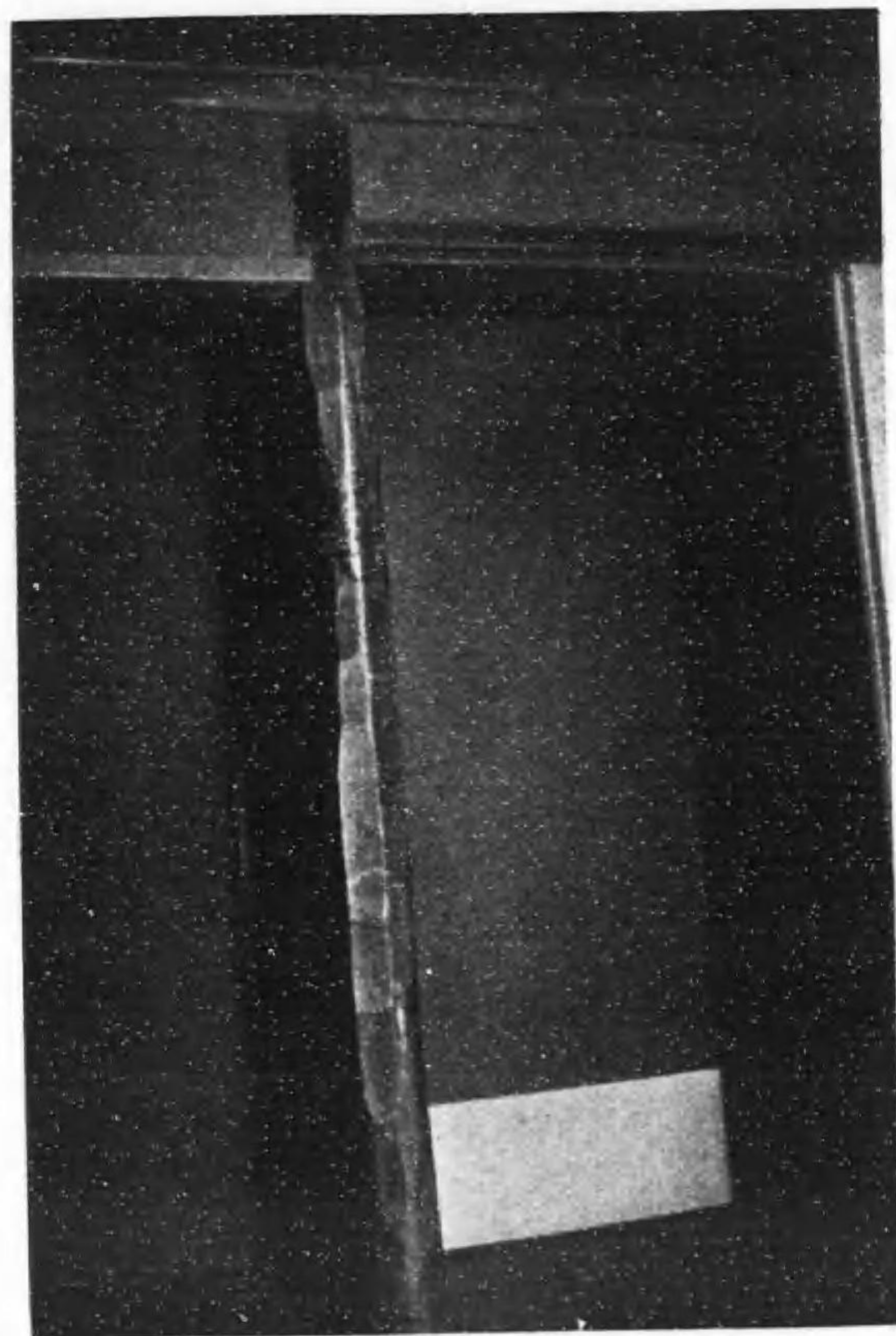
植物園の一部「花菖蒲園」の景觀を表はしたもので、植物園事務所の前より兒童園前を南へ行つたところにある。全面積凡そ三百四十坪、五月の候ともなれば全池悉く菖蒲の花に被はれ實に見事なものである。



◎松 月 齋

(昭和區鶴舞町
鶴舞公園内)
市電・市バス、鶴舞公園
下車

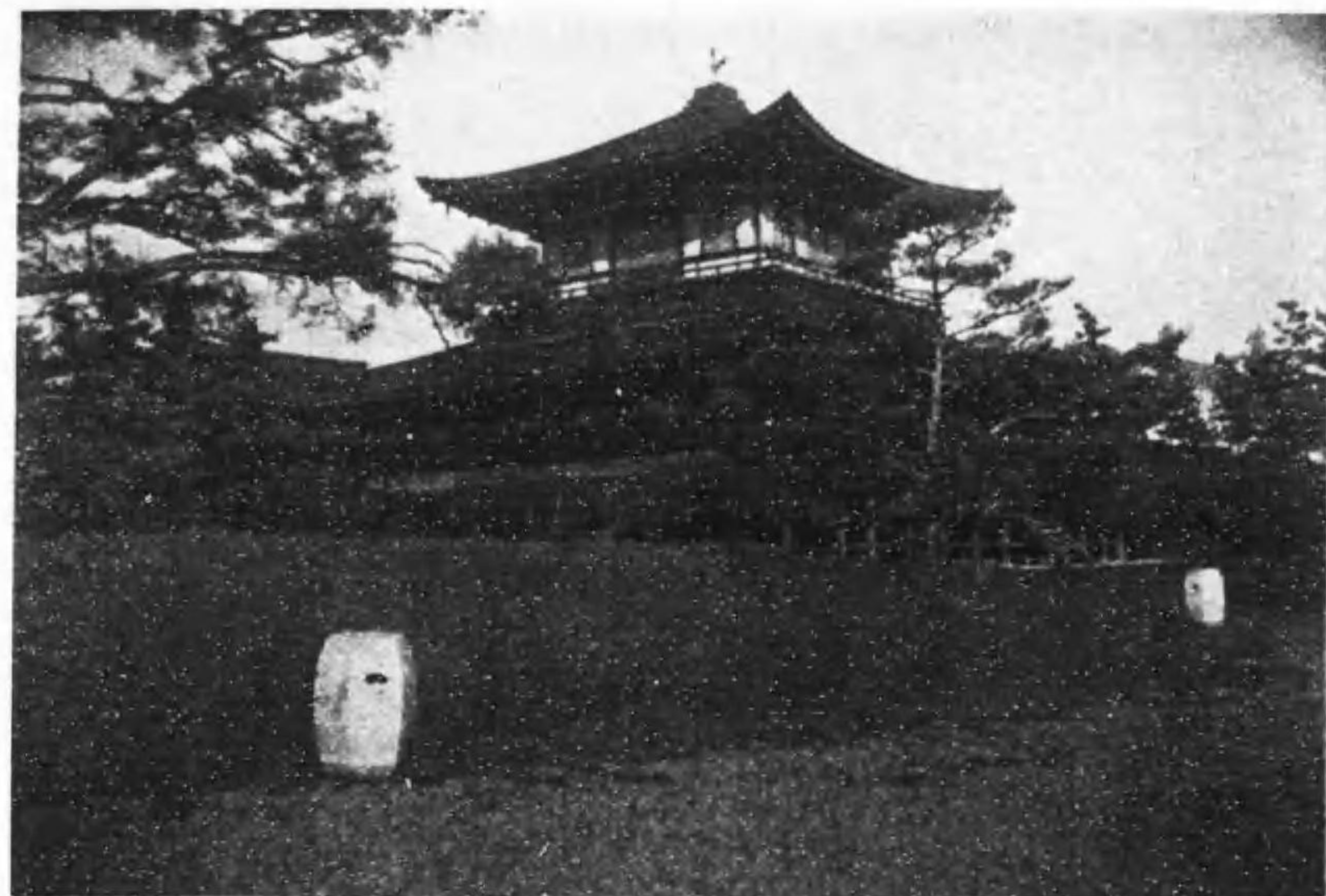
尾張藩主十二齋莊(文化七年六月十三日生) 弘化二年七月六日薨)の好みによるもので、徳川末期の數寄屋建築としての代表的のものである。本建物のもと江戸邸内にあつて主君齋莊懿公の御寢間であつたと傳へてゐる。天井十二支の畫は狩野派、襖の畫は梅雪道人、袋棚は探幽齋の筆である。昭和四年當所に移轉したものである。



◎猿面茶屋
の床柱

(猿面茶屋内)

此の床柱は屈曲せる松の粗木で作られ凸起してゐる、最上部の節が猿面に見えるので猿面茶屋の名が生じたと傳へられてゐる。度々改築されてゐるがよく昔のまゝに残つて居ることは非常に珍しい。四疊半薄柿葺であつて、蒲天井(西方三分の壁は御器所(地名馬のジャウ)の土を以て塗つてある。これはよくさびる爲であるといふのである。



◎聞天閣

(昭和區鶴舞町
鶴舞公園内)
市電・市バス、鶴舞公園
下車

明治四十年の關西府縣聯合共進會に
貴賓館として用ひられたもので、室町
式の建築で二層建高欄付で階下二十二
疊二室、階上三十二疊、屋上には青銅
の鳳凰が翼をひろげてゐる。前の庭園
は村瀬、松尾兩宗匠の考案である。



◎松月齋

手洗鉢

(松月齋庭前)

名古屋築城の
際石を曳きたる
車の輪を利用し
たといふ説があ
る。風雅なもの
でこれらの庭に
は最もふさわし
いものである。

交通遺跡



◎七里渡

(熱田區神戸町)
市バス、神戸橋
下車

宮(今の熱田)から伊勢の桑名へ渡る船渡して海上七里から此の名を得た。東海第一の大渡津だけに客の集るもの多く荒海の日など宿は大騒ぎであつたといつてゐる。今こゝに常夜燈が建設してある。



◎七里渡常夜燈

(七里渡船付)

熱田の濱の常夜燈は寛永二年、犬山城主成瀬隼人正正房が父正虎(初正房。小平次半左衛門)の遺命によつて建てられたもので永代の燈明料として須賀浦太子堂へ供養田を寄附した。其後神戸の寶勝院に田地を譲り燈臺も寺の管理に移つた。維新後取壊されて今は僅かに記念の模型を止むるにすぎない。銘文は堀杏庵の撰文になつてゐる。



◎笠寺一里塚

(南區笠寺町)
市バス、笠寺行
終點下車スゲ

慶長六年徳川幕府は諸國街道を改修し三十六町を一里と定め、一里毎に塚を築いて塚の上に榎(松)其他のものもある)を植ゑさせた。笠寺の一里塚は笠寺観音より東海道を南東に向つて進むこと七百米、北側にあつて尙原型を存し塚上に榎の老木がある。南側のもは通路のために切りとられてしまつた。



◎東田町一里塚

(中區東田町四)
(圓教寺内)
市電、新築町下車
一丁南へ東田町通
り東二丁入ル

圓教寺境内の南西隅にある。尾張志に「慶長十七年壬子の春、東照宮岡崎から名古屋への近道をひらき給ひ、平針村に傳馬をまうけ一里塚等を築かせ給ひしその塚の残りたる也」又碑面に

旅人の心や涼し一里塚 塵鏡庵 獅寶
城東圓教寺後山、有孤阜、其形毅然、上有老松、其枝鬱然。蓋舊時記里堆也。略文化七年庚午夏六月

尾張秦鼎撰
釋圓觀書



由来
堀尾金助といふ十八歳の若者が天正十八年の小田原陣で戦歿したが、三十三回忌に當つて其の母が菩提を弔ふ爲に架けたものである。

てんしやう十八ねん二月十八日、おだはらへの御ちん、ほりをきん助と申す十八になりたる子をたゞせてより、又ふためとも見ざるかなしさのあまりに、いま此はしをかける事、はゝの身には、らくるいとものなり、そくしんじやうぶつし給へ……此のかきつけを見る人念佛申給へや、三十三年のくやう也。



◎今の裁断橋
(熱田區傳馬町)
市電・市バス、
傳馬町下車東へ
三丁

熱田神宮から東海道を東へ八丁畷へ出る途中元の精進川に架せられた木橋であったが、川は埋立てられ僅かに残る四本の欄干に昔の名残りを留めてゐる。其の欄干の擬寶珠に漢文と平假名兩様の銘文が彫りつけてある。由来はつぎに説明する。

勝景其他



◎信長草紙

かけの松

(中村區稻葉地町
凌雲寺内)

市バス、大正橋行
終點下車スグ

織田信長の幼少の頃、寺小屋に通つた時、この松に草紙をかけて附近の子供と遊んだと傳へられてゐる。

碑面に

龍鱗千歳々寒躬。
翠蓋凌雲抽碧空。
薄暮擇枝丹頂鶴。
疑斯草紙翻清風。



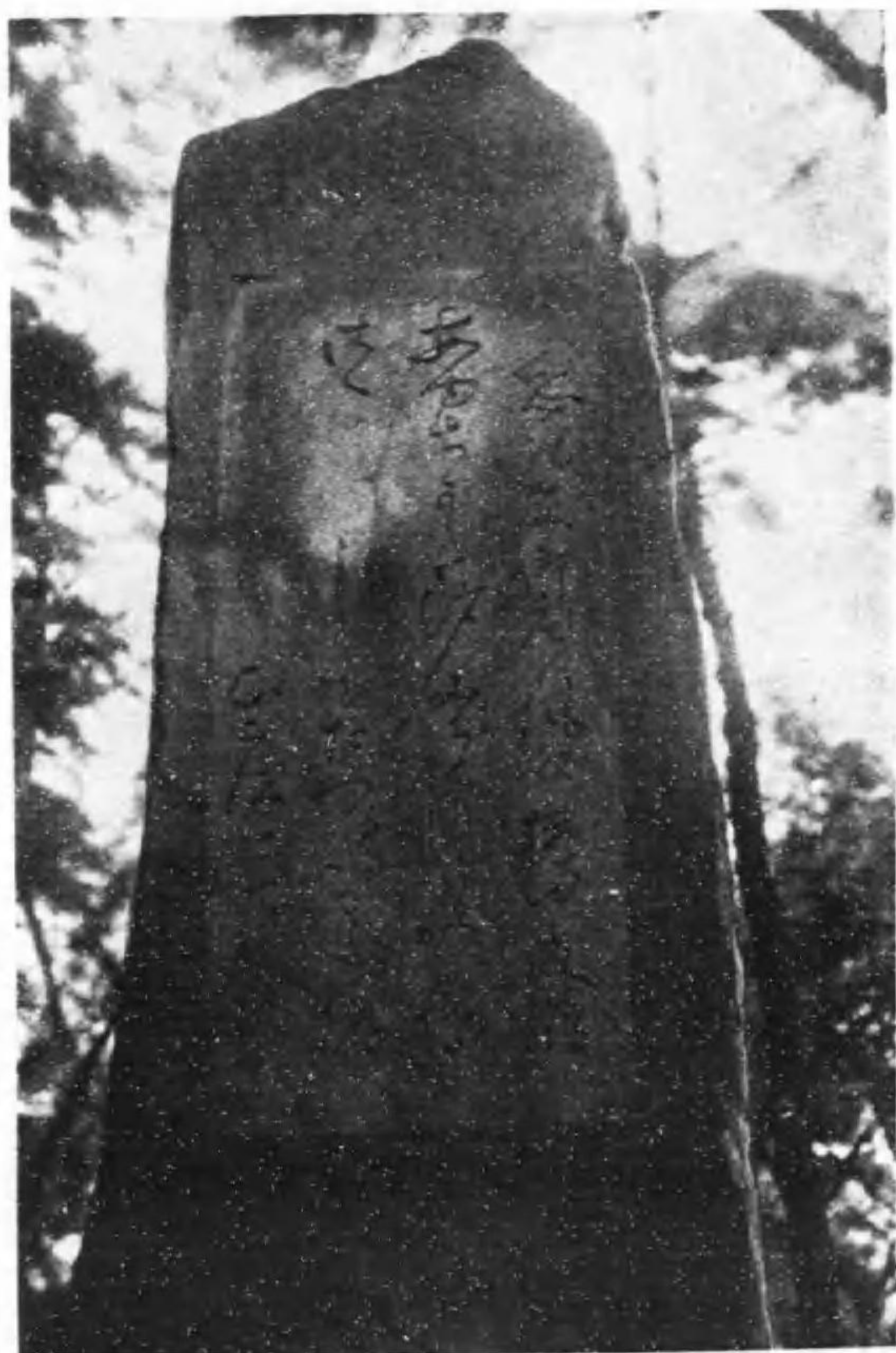
◎日本武尊

腰掛岩

(中川區岩塚町
七所社内)

市バス、岩塚下
車北二丁

日本武尊伊吹山の荒神を退治せんと熱田より彼の山に至り給ふ途中、この所にて暫く憩ひ給ひし舊地で其の時御腰をかけた岩と傳へられてゐる。本殿の右側にある。



◎櫻田景勝

(南區春野町
八幡社境内)
市バス、櫻下車
東四丁

此の地は古昔、年魚市潟に沿ひ和名抄にいふ「作良」で奈良朝の當時高市連黒人は

櫻田へ田鶴なき渡る年魚市潟しほ干にけらし田鶴なき渡る

と詠じ古くより街道筋の勝地として世に知られてゐる。大正天皇の御即位に際し悠紀地方に、こゝが歌に詠まれて更らに有名になつた。碑に年魚市潟しほみちくらしうちかすむさくら田さしてたづなき渡る
正二位 源清綱



◎年魚市潟勝景

(南區呼続町
白毫寺内)
市バス、笠寺西
門行地蔵前下車
西二丁

境内の見晴しのよいところにこの碑がある。此の地名が知られてゐたのは餘程古いことで、日本書記に草薙劍のことを書いた中に

「劍今在尾張國年魚市郡熱田社」

と記るされてゐる。年魚市潟は、この熱田東方の入江が當時さう呼ばれたものと思はれる。



◎貯木場

(熱田區白鳥町)
市電・市バス、白鳥橋下
車西北一町

もと尾張藩御舟番所のあつた處で、
尾張名所圖會に「此の邊數町の間白鳥
御材木場所」とある。今は帝室林野局
所屬の貯木場となつてゐる。



◎年魚市潟
の碑

(同前)

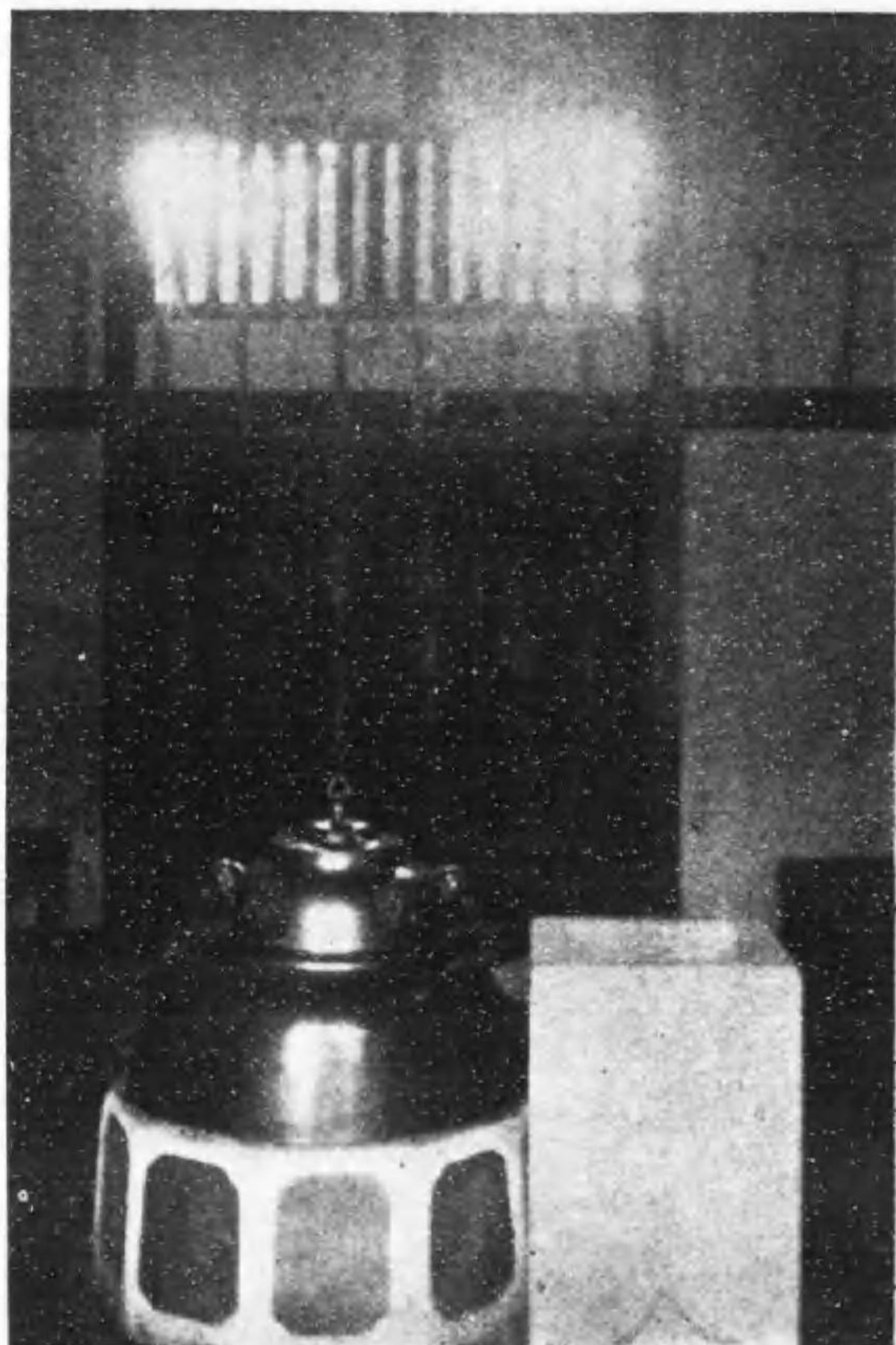
わだつみの

神もほぐらし

あゆちがた

知多の浦波

千代の聲して



天明年中の建立にかゝるもので其の昔熱田神宮に参詣する人々へ此の所にて茶を接待したものである。参宮以外の一人には一杯の茶の接待も許さない。よつてこれを「清めの茶屋」と名づけた。

◎清めの茶屋

(熱田區旗屋町
誓願寺内)
市バス、本町通
り旗屋町下車、
南一丁西側



◎記念碑

(千種區覺王山)
市電、覺王山前下車日遲
寺東二丁

明治二十七、八年戦役後第一軍として清國に出征し、名譽の戦死を遂げた第三師團管下の將士の偉勳を表彰した一大記念碑である。



◎名古屋港

(港區海岸通)
市電、築港下車

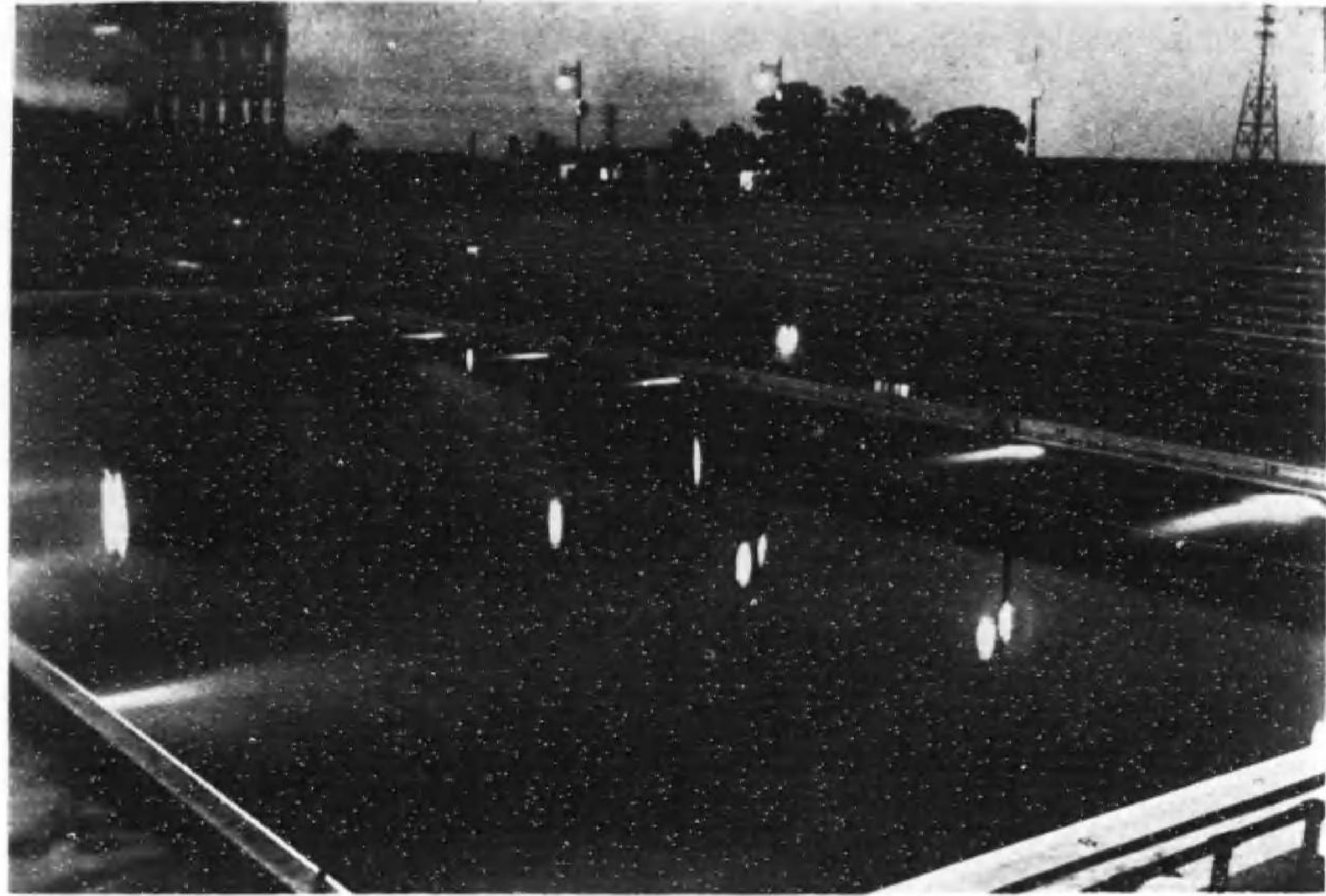
明治二十七年築港の議起り、同二十九年第一期工事に着手、目下第四期工事も將に終らんとしてゐる。總工費三千七百四十九萬圓で目下本港に寄港する定期船は八十一航路、毎月平均百五十餘隻の寄港を見、これが工事完成の暁には一ケ年間一千万噸以上の貿易貨物が取扱ひ得ることゝなる。實に我が國屈指の貿易港である。



◎公會堂

(昭和區鶴舞町)
市電・市バス、鶴舞公園
下車

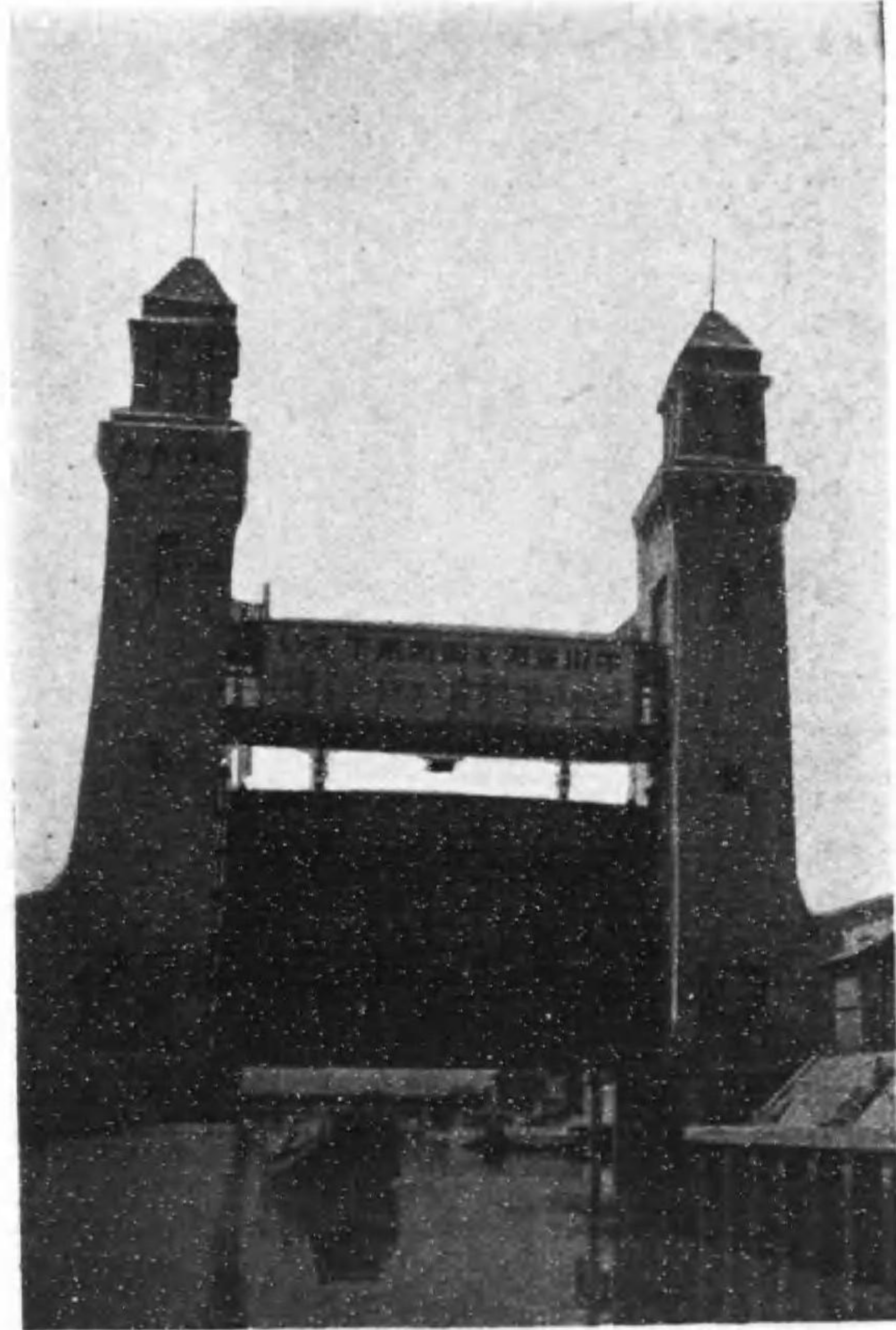
今上天皇 御成婚記念として計畫せられたもので、三年半の日子と二百二十萬圓を以て昭和五年九月竣工した。建物は、近世式鐵筋コンクリート五階建、延坪三千五百六十一坪、大ホールは四百七十七坪、二千七百人の収容力がある。其他大食堂、談話室、特別室日本間、娛樂室、婦人室等の附屬設備二十三を有しあらゆる方面に利用されてゐる。



◎振甫プール

(千種區振甫町)
市バス、振甫プール前下車

敷地面積は、三千三百十坪餘り、競泳プール、飛込プール、練習プール、徒渉池、觀覽席、休憩所等の設備がある。名古屋の誇り得るプールである。



◎中川運河

(中川區)
築港口ヨリ水主町マデ

昭和五年十月竣工工費二千萬圓五ヶ年の日子を費して名古屋驛と名古屋港を連絡する爲に開鑿したものであつて沿岸一帯は大工場地帯として將來の發展を囑目せられてゐる。延長三千九百十五間外に堀川支線延長六百間ある。幅員は幹線五十間と三十間、支線二十間で閘門式の運河で其の規模の廣大と施設の完備は東洋一の稱がある。

409
220



◎観光案内所

(名古屋驛降車口)

名古屋市産業部観光課の出張所として昭和十二年二月一日名古屋驛開驛と同時に開所した。観光案内の一般事務を取扱ひ、數人の係員が旅客の應接をなし、昭和十四年度には實に二十三萬四千人の人々がこれを利用した。

昭和十五年十一月五日印刷
昭和十五年十一月十一日發行

名古屋市東區東外堀町二ノ四

編輯兼 淺野利郷
發行人

發行所 名古屋市産業部観光課

名古屋市中區千早町五ノ一六

印刷人 中尾五郎

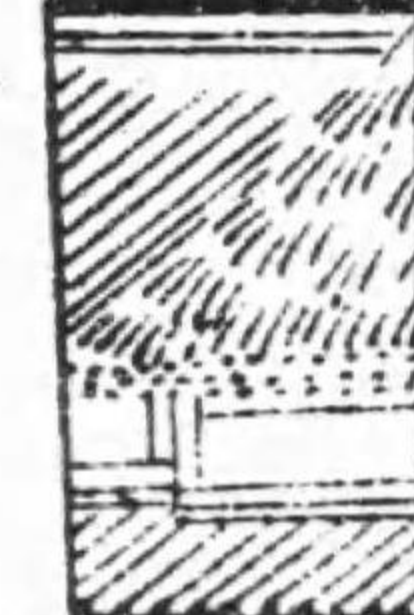
名古屋市中區千早町五ノ一六

印刷所 株式會社一誠社

終



一の鳥居
寒中大宮
夜春の園



三雅
編